

八女市南部地区県営圃場整備事業地内
埋蔵文化財調査概報 3

福岡県八女市大字酒井田・緒玉所在遺跡の調査概報

八女市文化財調査報告書
第 23 集

1 9 9 2

八 女 市 教 育 委 員 会

序

八女市南部地区県営圃場整備事業に伴います埋蔵文化財の発掘調査は、昭和60年から毎年継続して進めておりますが、貴重な遺跡や遺物の発見が相次いで大きな成果を上げています。本年度は、我が国で最古で最大の豪族居館跡の発見などで話題を呼びました。

なお、発掘調査にあたりまして、福岡県教育委員会をはじめ福岡県筑後川水系農地開発事務所、地元町内会、八女南部土地改良区、八女南部第2地区土地改良区をはじめ、関係各位に御指導と御協力を得ております事を心から感謝いたしております。

本書の刊行にあたり、御協力いただきました関係各位に深く感謝申し上げます。

平成4年3月31日

八女市教育委員会

教育長 坂田 不二夫

例 言

1. 本書は、八女市が国、県の補助を受けて実施している、八女市南部地区県営圃場整備事業に伴う発掘調査の調査概報である。
2. 発掘調査は八女市教育委員会が主体となり実施しているが、本書には平成3年度発掘調査を実施した分を収録している。
3. 出土遺物は岩戸山歴史資料館において整理を行っている。
4. 遺構の実測と写真は各遺跡の担当者が主となって行った。
5. 本書の執筆は各遺跡の担当者が行い、文末に記した。なお、編集は赤崎が行った。

目 次

I はじめに	1
II 位置と環境	2
III 発掘調査の概要	3
1. 京田遺跡	3
2. 石町遺跡	5
3. 京田3次・深田遺跡	7
4. 池上遺跡	10
5. 鳥井遺跡	12
6. 柿園遺跡	14
7. 御興休遺跡	15

I はじめに

平成3年度の八女市南部地区県営圃場整備事業は、八女南部地区分として、八女市緒玉地区を中心とした9ha、八女南部第2地区分として、八女市酒井田地区を中心の21.4haの事業が計画された。これに先だって、平成2年11月に当該地の試掘調査を行い、事業地内の埋蔵文化財の把握に務めながら市、県教育委員会、土地改良区、県筑後川水系農地開発事務所と協議を重ねながら事業地内において、削平や掘削を受ける部分について発掘調査を実施している。

調査関係者は次のとおりである。

八女市教育委員会

教 育 長	坂 田 不二夫
教 育 部 長	松 延 繁 太
社会教育課長	大 月 重 信
社会教育係長	下 川 文比古
社会教育係	平 島 芳 子、井 上 富 雄
	井 手 勇 一
(文化財担当)	赤 崎 敏 男、大 塚 恵 治
(嘱 託)	中 川 寿賀子

八女南部土地改良区

理 事 長	角 實 雄
事 務 局 長	政 次 春 男
事 務 次 長	栗 原 昭
事 務 局 員	金 納 三枝子

八女南部第2土地改良区

理 事 長	近 藤 義 竹
事 務 局 長	片 岡 孝 行
事 務 局 員	秋 山 由 美

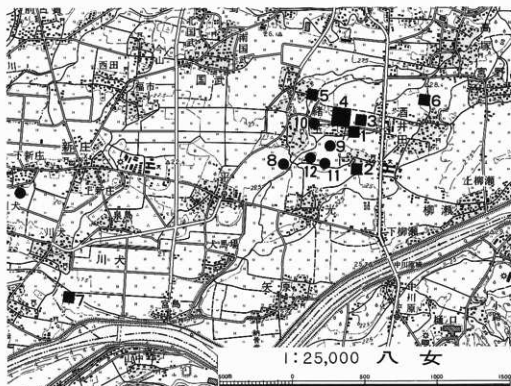
福岡県教育庁南筑後教育事務所

技 術 主 査	佐々木 隆 彦
---------	---------

Ⅱ 位置と環境

平成3年度八女南部地区及び八女南部第2地区県営園場整備事業は、矢部川によって形成された沖積平野の右岸地区を中心として実施された。

昭和60年度から始まった園場整備事業の進展に伴って、毎年多くの遺跡の発掘調査を実施しているが、昨年度は新庄地区の原ノ前遺跡（弥生時代中期集落跡）、酒井田地区の京田遺跡第1次調査（古墳時代前期集落跡・中世溝）、二反田遺跡（弥生時代中期～古墳時代前期集落跡）、宮ノ前遺跡（弥生時代中期～古墳時代前期集落跡）、緒玉地区の宿町遺跡（弥生時代中期初めの集落跡）、野田遺跡（弥生時代後期の墳墓群）、水洗遺跡（弥生時代中期～後期の集落跡）などの調査を行った。



1. 京田遺跡(1次・2次) 2. 石町遺跡 3. 京田遺跡(3次) 4. 深田遺跡 5. 池上遺跡
6. 鳥井遺跡 7. 柿園・御興休遺跡(平成3年度調査)
8. 宿町遺跡 9. 二反田遺跡 10. 野田遺跡 11. 宮ノ前遺跡 12. 水洗遺跡(平成2年度調査)

第1図 八女市南部地区県営園場整備地内調査地点

Ⅲ 発掘調査の概要

1. 京 田 遺 跡 (第2次)

- ① 所在地 八女市大字酒井田字京田
- ② 調査期間 平成3年4月1日～平成3年5月10日
- ③ 調査面積 2,100㎡
- ④ 調査概要 八女市大字酒井田字京田に所在し、市営住宅の真東にあたる。標高約25mの低位段丘上に位置しており、発掘調査以前は水田であった。

調査の結果検出した遺構は、竪穴住居・土塙溝・柱穴等で、弥生時代終末～古墳時代前半の集落跡である事が判明した。

◎ 弥 生 時 代

○溝 北東から南南西に走る溝一条を検出した。幅約50cm、深さ約60cmの小規模なもので用途は不明。底部分からは弥生時代後期の壺数個体分が投棄された状態で出土した。

◎ 古 墳 時 代

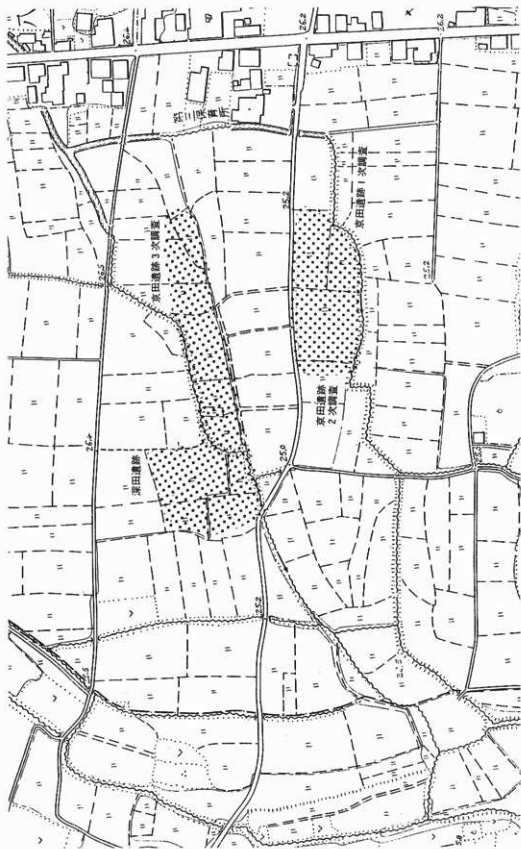
○竪穴住居 25軒の竪穴住居を検出した。

形は約6m×6mの方形をしたものが一般的であったが、10m×8mと大型長方形プランを呈するものもあった。

遺物は古墳時代初頭の土師器である甕・小型丸底壺・高杯等で、当遺跡の真北に位置している深田遺跡との関連が興味深い。

○土塙 10基検出した。

無遺物のものもあったが、住居群とほぼ同時期と思われる。用途は不明。(大塚恵治)



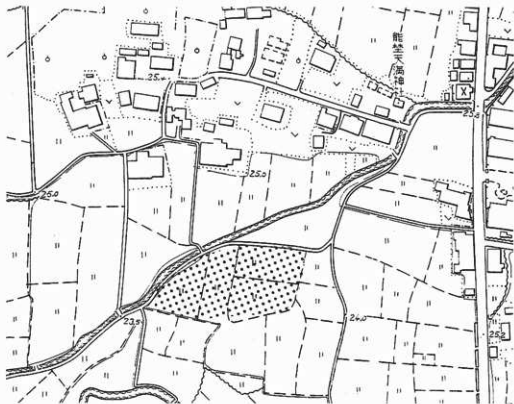
第2図 京田・深田遺跡調査位置図 (1/2,500)

2. 石町遺跡

- ① 所在地 八女市大字酒井田字石町
- ② 調査期間 平成3年6月14日～9月6日
- ③ 調査面積 3,200㎡
- ④ 調査の概要 本遺跡は、大字酒井田字石町に所在し、前年度に行われた宮ノ前遺跡の南東に位置する。北側には、行基が開山したと伝えられる光明寺があり、今回の調査ではその関連遺跡が出土するのでは、と期待された。

調査面積は、約3,200㎡で、調査の結果、時期不明のものと思われる土壌群と、歴史時代の堅穴住居跡や掘立柱建物、溝などが発見された。

○土壌 一辺2m前後の方形のものほとんどで、直径1m前後の小型の円形のものもある。なかには2段になっているものもある。遺物は少なく壺などの細片が出土した。数基を除いて、ほとんどの土壌から炭化物が確認されており、1例ではあるが、中層から炭化米がぎっしり詰まったものもあった。他に、石匙などが出土した。土壌は掘立柱建物、溝等に先行する時期のものであるが、時代は遺物が少ないため、特定できない。



第3図 石町遺跡調査位置図 (1/2,500)

— 歴 史 時 代 —

○堅穴住居跡 6軒が確認されており、1軒を除いていずれもカマドを有している。非常に残りが悪い。住居跡は一辺が3m前後の小型のものが多く、柱をもつものは少ない。出土する遺物も少なく、そのうちの1軒より、瓦と考えられる遺物が出土した。

また、カマドの中から土鍾（どすい）が出土した住居もあった。

○掘立柱建物跡 6棟が確認された。南北棟のものは4棟で、ほぼ真北方向を主軸方向としており、規模も4間×6間（7.2m×10.8m）と大きい。

柱根は直径約20cmのものが使用されている。出土遺物が少なく、時期の決め手に欠けるが、東西方向の溝を壊して建てられている。

○溝 大小のものが発見されたが、そのうち4条は東西方向に流れており、2条は南北方向に流れている。

遺物は、溝中より、土師器の皿や杯、須恵器の甕や杯などが多量に出土しており、8～9世紀の土器が中心となる。（中川寿賀子）



第4図 石町遺跡掘立柱建物跡（北より）

3. 京田^{きょうでん}3次・深田^{ふかだ}遺跡

- ① 所在地 八女市大字酒井田字京田、字深田
② 調査期間 平成3年4月1日～平成3年12月17日
③ 調査面積 8,900㎡
④ 調査の概要

ー弥生時代ー

○竪穴住居跡 長方形と方形の住居があり、長方形の住居にはベッド状遺構がみられる。柱の構造は、2本柱、4本柱、無柱のものがあり、バラエティにとんでいる。遺物としては甕など、土器の他に、石廬丁が出土している。

○円形周溝 弥生時代後期のもの。今回2基発見されたが、遺物は甕などが出土した。

ー古墳時代ー

○竪穴住居跡 一辺7.5mの大形のものと、一辺3mに満たない小形の住居があり、いずれも方形である。大形は4本柱で、小形は無柱の構造が多い。住居の一方壁際に方形の掘り込みがあるのがこの時期の住居構造の特色である。遺物は、多量の土器が発見されており、鉄器も出土している。4世紀はじめごろの住居である。



第5図 深田遺跡全景（南西より）

○居館跡 深田地区で、東西約70m、南北約60mで、ほぼ方形にめぐる溝を発見した。溝の幅は2～4mあり、深さは1～1.5mある。溝の南北隅と北西隅、北東隅に隅丸方形の突出部があり、他の隅も同様な構造と思われる。また、東と西には幅5mほどの突出部がある。

遺物は、少ないが、下層より4世紀はじめごろの土師器が出土した。

この溝は構造等より、最近各地で発見が相次いでおり、古墳時代豪族の居館跡ではないかと考えられる。

一 歴 史 時 代 一

○堅穴住居跡 調査地のほぼ全域に渡って、約60軒の8世紀代を中心とした歴史時代の堅穴住居が発見されている。とくに、調査区の西側には約35軒が集中している。歴史時代の住居は方形が多く、長方形がわずかにまじる。一辺4～5mの小形の住居と、一辺3m以下の非常に小形の住居が中心である。住居の壁の一方に、掘り込み式のカマドが作られている。柱は、大形の住居は4本柱とするが、大半の住居は無柱である。

出土遺物は、土師器、須恵器が多く、時々土製品として土鍾が出土しており、また、鉄器も比較的多く出土している。

○土壌 現在約20基発見されており、なかには焼土のたまったものもある。出土遺物は、土師器、須恵器などが出土している。



第6図 京田遺跡3次住居跡（西より）



第7図 深田遺跡居館溝北東隅突出部（東より）



第8図 居館溝・土層



第9図 居館溝出土土師器

4. 池上遺跡

- ① 所在地 八女市大字緒玉池上
- ② 調査期間 平成3年10月21日～平成4年3月10日
- ③ 調査面積 4,000㎡
- ④ 調査の概要 調査区域は、標高25m前後にあり、東へ約200mの位置には、前回調査を行った深田遺跡があり、南へ約150mの位置には、前年度調査を行った野田遺跡がある。

調査は、区域の北側より行い、少なくとも4つの時期が存在したことが判明した。

遺構としては、弥生時代のものと思われる竪穴式住居が1軒と、歴史時代の住居が25軒発見され、掘立柱建物は3棟が確認された。また、北から南へ走る弥生時代の溝が1条と、下層から縄文時代の押型文土器片が出土した不明の円形竪穴遺構が5基、それに弥生時代～古墳時代にかけの石蓋土墳墓が1基と、10基を超える土壌が発見された。



第10図 池上遺跡調査位置図 (1/2,500)



第11図 池上遺跡全景（北より）



第12図 池上遺跡縄文時代早期竪穴

5. 鳥井遺跡

- ① 所在地 八女市大字酒井田字鳥井
 ② 調査期間 平成3年12月21日～平成4年3月10日
 ③ 調査面積 A地点 550㎡
 B地点 800㎡（トレンチを含む）
 C地点 500㎡
 ④ 調査の概要 本遺跡の調査区域は、3地点に分散しており、A地点、B地点、C地点とすることにした。

標高については、それぞれ28m前後となっている。

調査の結果、A地点では歴史時代のカマドを北側に有する竪穴式住居が1軒だけ確認され、他はピットのみ検出された。次にB地点では、遺物のほとんど出土していない土壌が8基と、無数のピットが確認された。ピットは、掘立柱建物としてつながるものではなく、一部からは黒曜石の細片が出土した。最後にC地点であるが、遺構としてはとくに発見されなかった。



第13図 鳥井遺跡調査位置図 (1/2,500)



第14図 鳥井遺跡全景（A地点）



第15図 鳥井遺跡住居跡

6. 柿園遺跡

- ① 所在地 八女市大字川犬字柿園
- ② 調査期間 平成3年12月21日～平成4年3月31日
- ③ 調査面積 3,000㎡
- ④ 調査の概要 本調査区は、八女市最南端に位置し、南は矢部川を隔てて立花町をのぞみ、西は筑後市に近接している。

地表の標高は16m前後で、酒井田地区と比べると-10mの差がみられる。

この地区は、何度も矢部川の氾濫にあっており、近接する農家の納屋の壁には人間の高さをこえる水のあとが歴史とともにきざまれている。

以前は畑であり、砂地であったためゴボウなどの根ものの野菜類をつくっていたということである。そのため1mほど掘りさげた。地形は南北に長く、北側の部分にはたいした遺構はみられず、土壌から瓦器の破片が出土した。

また、南側からは環濠の1部と思われる溝がめぐっており、その中から多量の人為的にわられた石と、瓦などが出土した。環濠内のピットは多く、その中には礎石と思われる石を有したのものもあった。

時期は、溝の最下層から須恵器が出土しており、13世紀中頃より以前のものではないと思われる。



第16図 柿園・御興休遺跡調査位置図 (1/2,500)



第17図 柿園遺跡全景（西から）

7. 御興休遺跡

- ① 所在地 八女市大字川犬字御興休
- ② 調査期間 平成4年2月18日～平成4年3月31日
- ③ 調査面積 1,500㎡
- ④ 調査の概要 本調査区は、柿園遺跡の西隣に位置しており、その小字名から神社に関連しているものと思われるが、近くには南側に干灯明で有名な^{かみづら}竜神社があり、また北側には、正八幡宮があり、どちらに由来するものかは不明である。地元では通称“みさご”と呼ばれている。

ここからは、東西に走る溝が2条、南北へ走る溝が1条発見された。単なる溝ではなく、関連のあるものと考えられるが、つながる部分が削平されているため、決定的な判断とはならなかった。

土器をみると、柿園遺跡とはほぼ同時代のものと考えられるが、出土数はごくわずかであった。



第18図 御興休遺跡全景（北より）

八女市南部地区県営圃場整備事業地内

埋蔵文化財調査概報 3

八女市文化財調査報告書

第 23 集

平成 4 年 3 月 31 日

発 行 八 女 市 教 育 委 員 会
福岡県八女市大字本町647番地
印 刷 ア オ ヤ ギ 株 式 会 社
福岡市東区粕崎ふ頭6丁目6-39
電話 092 (641) 1431

八女市南部地区県営圃場整備事業地内

埋蔵文化財調査概報 3

福岡県八女市大字酒井田・緒玉所在遺跡の調査概報

八女市文化財調査報告書

第 23 集

1 9 9 2

八 女 市 教 育 委 員 会

序

八女市南部地区県営園場整備事業に伴います埋蔵文化財の発掘調査は、昭和60年から毎年継続して進めておりますが、貴重な遺跡や遺物の発見が相次いで大きな成果を上げています。本年度は、我が国で最古で最大の豪族居館跡の発見などで話題を呼びました。

なお、発掘調査にあたりまして、福岡県教育委員会をはじめ福岡県筑後川水系農地開発事務所、地元町内会、八女南部土地改良区、八女南部第2地区土地改良区をはじめ、関係各位に御指導と御協力を得ております事を心から感謝いたしております。

本書の刊行にあたり、御協力いただきました関係各位に深く感謝申し上げます。

平成4年3月31日

八女市教育委員会

教育長 坂田 不二夫

例 言

1. 本書は、八女市が国、県の補助を受けて実施している、八女市南部地区県営園場整備事業に伴う発掘調査の調査概報である。
2. 発掘調査は八女市教育委員会が主体となり実施しているが、本書には平成3年度発掘調査を実施した分を収録している。
3. 出土遺物は岩戸山歴史資料館において整理を行っている。
4. 遺構の実測と写真は各遺跡の担当者が主となって行った。
5. 本書の執筆は各遺跡の担当者が行い、文末に記した。なお、編集は赤崎が行った。

目 次

I はじめに	1
II 位置と環境	2
III 発掘調査の概要	3
1. 京田遺跡	3
2. 石町遺跡	5
3. 京田3次・深田遺跡	7
4. 池上遺跡	10
5. 鳥井遺跡	12
6. 柿園遺跡	14
7. 御興休遺跡	15

I はじめに

平成3年度の八女市南部地区県営園場整備事業は、八女南部地区分として、八女市緒玉地区を中心とした9ha、八女南部第2地区分として、八女市酒井田地区を中心の21.4haの事業が計画された。これに先だって、平成2年11月に当該地の試掘調査を行い、事業地内の埋蔵文化財の把握に努めながら市、県教育委員会、土地改良区、県筑後川水系農地開発事務所と協議を重ねながら事業地内において、削平や掘削を受ける部分について発掘調査を実施している。

調査関係者は次のとおりである。

八女市教育委員会

教 育 長 坂 田 不二夫
 教 育 部 長 松 延 繁 太
 社会教育課長 大 月 重 信
 社会教育係長 下 川 文比古
 社会教育係 平 島 芳 子、井 上 富 雄
 井 手 勇 一
 (文化財担当) 赤 崎 敏 男、大 塚 恵 治
 (嘱 託) 中 川 寿賀子

八女南部土地改良区

理 事 長 角 實 雄
 事 務 局 長 政 次 春 男
 事 務 次 長 栗 原 昭
 事 務 局 員 金 納 三枝子

八女南部第2土地改良区

理 事 長 近 藤 義 竹
 事 務 局 長 片 岡 孝 行
 事 務 局 員 秋 山 由 美

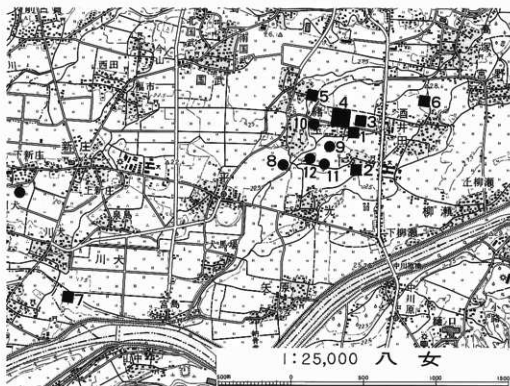
福岡県教育庁南筑後教育事務所

技 術 主 査 佐々木 隆 彦

Ⅱ 位置と環境

平成3年度八女南部地区及び八女南部第2地区県営園場整備事業は、矢部川によって形成された沖積平野の右岸地区を中心として実施された。

昭和60年度から始まった園場整備事業の進展に伴って、毎年多くの遺跡の発掘調査を実施しているが、昨年度は新庄地区の原ノ前遺跡（弥生時代中期集落跡）、酒井田地区の京田遺跡第1次調査（古墳時代前期集落跡・中世溝）、二反田遺跡（弥生時代中期～古墳時代前期集落跡）、宮ノ前遺跡（弥生時代中期～古墳時代前期集落跡）、緒玉地区の宿町遺跡（弥生時代中期初めの集落跡）、野田遺跡（弥生時代後期の墳墓群）、水洗遺跡（弥生時代中期～後期の集落跡）などの調査を行った。



1. 京田遺跡(1次・2次) 2. 石町遺跡 3. 京田遺跡(3次) 4. 深田遺跡 5. 池上遺跡
6. 鳥井遺跡 7. 柿園・御興休遺跡(平成3年度調査)
8. 宿町遺跡 9. 二反田遺跡 10. 野田遺跡 11. 宮ノ前遺跡 12. 水洗遺跡(平成2年度調査)

第1図 八女市南部地区県営園場整備地内調査地点

Ⅲ 発掘調査の概要

1. 京 田 遺 跡 (第2次)

- ① 所 在 地 八女市大字酒井田字京田
- ② 調 査 期 間 平成3年4月1日～平成3年5月10日
- ③ 調 査 面 積 2,100㎡
- ④ 調 査 概 要 八女市大字酒井田字京田に所在し、市営住宅の真東にあたる。標高約25mの低位段丘上に位置しており、発掘調査以前は水田であった。

調査の結果検出した遺構は、竪穴住居・土塙溝・柱穴等で、弥生時代終末～古墳時代前半の集落跡である事が判明した。

◎ 弥 生 時 代

○溝 北東から南南西に走る溝一条を検出した。幅約50cm、深さ約60cmの小規模なもので用途は不明。底部分からは弥生時代後期の壺数個体分が投棄された状態で出土した。

◎ 古 墳 時 代

○竪穴住居 25軒の竪穴住居を検出した。

形は約6m×6mの方形をしたものが一般的であったが、10m×8mと大型長方形プランを呈するものもあった。

遺物は古墳時代初頭の土師器である甕・小型丸底壺・高杯等で、当遺跡の真北に位置している深田遺跡との関連が興味深い。

○土塙 10基検出した。

無遺物のものもあったが、住居群とはほぼ同時期と思われる。用途は不明。(大塚恵治)